



「少年の主張大会」市内中学生の主張内容紹介①

9月8日(金)に行われた県少年の主張大会(尾花沢大石田地区)で、福原中学校3年の庄司桜香さんが、見事「優良賞」に輝きました。次に、主張の内容を紹介します。

■「繋がりのある社会のために」

「こんにちは。初めまして。菊池幸子です。」

これが私と菊池先生との出会いでした。昨年度、学年行事として行われた手話教室に、講師でいらっしやっただのが、菊池先生でした。事前学習の中で、菊池先生が耳の聞こえない、いわゆる「聾者」であることは聞いていたのですが、教室に入っしやっただ菊池先生は、柔らかな笑顔を絶やすことなく、一見ただけでは私たち健聴者と何も変わることはありませんでした。

しかし、手話教室が始まり、菊池先生が挨拶を始めると、先生はそれが当たり前のように「手話」を使い始めたのです。

「こんにちは。初めまして。今日はよろしくね。」

そう話しかけてくださる菊池先生の姿を見て、やはり先生は、私たちとは少し違った世界にいるのだと感じると同時に、先生には「手話」が私たちの「音声」と同じ、思いを伝える手段なのだと感じました。

私が菊池先生に初めに教わった手話は自分の名前の表し方でした。一つ一つ丁寧に教えてくださる先生のおかげで、「私の名前は庄司桜香です。」と自己紹介できるようになったときは、とてもうれしかったです。それからたくさんの手話を教えていただき、色々なことを表現できるようになっていくうちに、手話ばかりではなく、なんだか菊池先生のことを理解できているような気持ちになっていきました。手話教室の間中、耳が不自由であることを忘れてしまうぐらい、先生は常に笑顔で快活で、積極的に関わりを持とうとする前向きな人でした。

菊池先生と出会い、手話を通して先生の思いや考えを知る前の私は、テレビで流れるコマーシャルのように「耳の聞こえない」人は、他の人との関わりを極力避けるような、引込み思案な人が多いのだろうと無意識に思い込んでいました。これこそが、アンコンシャスバイアスというものなのでしょう。

でも、私のこのような思いは、私ばかりでなく、どんな人にもあるのではないのでしょうか。

では、なぜこんな思い込みや偏見が生まれてくるのでしょうか。

その理由は簡単です。私と同様に、生きにくさを持つ人との関わりを実際に持った経験がないからです。そして、世の中には様々な特性や個性を持った人がいることを理解していない人が、いまだに大勢いるからだと思います。だからこそ、今の社会では、偏見や思い込みによる差別が生まれているのです。

そうした問題を解決するためには、いろいろな個性を持っている人が、たくさん存在していることを知ってもらい、理解してもらうこと、そして、実際にそうした人との関わりを持ってもらうことが必要だと思います。そうすれば、社会生活を送るうえで、一人では大変な思いをしている人も、みんな、同じように過ごしていけるはずですよ。

話し声も笑い声も、足音や車の走る音も聞こえない、無音の世界。私にはま全く想像できなかった世界を生きている菊池先生。しかし、先生の「手話」を通して、私は先生の思いや考えの一端を知ることができました。そんな声なき言葉に耳を傾けたり、目を向けたりすることが、同じ社会に生きる隣人として、当然のようにできてこそ、本物の共生社会になっていくのではないのでしょうか。

この社会を生きる全ての人が、その人の個性や特性に合った基準で生活できる、そして、みんなが繋がってられる本物の共生社会。そんな社会にならなければならないためにも、私はこれからも「手話」を学んでいきたいと思っています。「みんなが幸せになれるように。」の思いを持って。



【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課
教育指導室長 工藤 雅史
TEL 23-3330